

## グループワーク（平成25年12月2日実施）発表概要

会長	<p>子ども・子育て会議のメンバーに、なるべく声を出してもらいながら決めていきたいのでグループワークを入れられないか事務局に話をした。時間は30分しかないので十分ではないが、意見を出してもらいたい。</p> <p>資料8、9について、乳幼児と学齢期の2つのグループで今後作業していくが、ニーズ調査の結果も出たし、先日の臨時会でも簡単なワークショップをしていろいろな声が挙がった。墨田区の子育て環境のよいところは地域の温かさがあり、次世代行動計画で地域の子育て支援が進められたこともあり、かなり充実してきた。</p> <p>一方で、課題1として、例えば昔ながらの地域の良さもあるが、墨田区の地域性の強さがまだ十分に生かされていないのではないかと。逆に地域力が弱まっているところがあるのではないかとということが挙がった。</p> <p>課題の2として、障害のある子ども、ひとり親、貧困など様々な課題をもつ子どもや家庭のことが挙がった。</p> <p>課題の3として、ひろばやセンターなど地域の子育て支援が整ったが、困っている人が相談に行き着くためには、ひろばや相談の場の連携も必要ということが挙がった。</p> <p>これら墨田区のおよさと課題が挙がったが、少しテーマを絞り、乳幼児ワーキングでは「乳幼児の教育・保育に大切なこと」、学齢ワーキングでは「学齢期の教育に大切なこと」と資料にあるが、ここでは放課後児童や子育て環境も含めた「学齢期の子どもを育てる上で大切なこと」とする。4つのグループを事務局が作ってくれたので、これで話を進めたい。時間配分は事務局で説明願いたい。</p>
事務局	<p>時間は残り30分なので時間配分を変える。グループ討議を20分くらい、各班の発表を1～2分くらい、会長の総評を残り時間で行いたい。机の配置は資料9に記載している。</p> <p>&lt;テーブルセッティング&gt;</p>
会長	<p>限られた時間だが、たくさん意見をを出して欲しい。そのため最初の5分間でポストイットに大切なことを何枚でも書き出してほしい。その中で話を進めて欲しい。</p> <p>乳幼児期については今後、保育の需給の問題が出る。保育所や幼稚園、小規模保育等を考えていくことになるので、どのようなことを大事に考えるかを話し合ってもらいたい。</p> <p>グループのとりまとめの人が進行してほしい。3～4点くらいに論点をまとめてもらい最後に発表していただきたい。</p> <p>次回、事務局を含めて、今日出たものを整理させてほしい。</p> <p>例えば、働き方について、どういう点が大事なのかを言ってもらいたい。</p>
Aグループの発表	<p>3点挙げた。前回も出た地域支援の充実のほか、アンケート結果から乳児期に親子がともに過ごすことを保障することが大事であることが今回新たに出た意見だ。しかし労働環境は許されない。病気になったときに休みやすい、乳児期に時短で働けるなど、園も親も行政も声をあげながら変えていけないか。3点目は保育の質の充実で、量や種類もあるが、保育者の専門性の確保、保育の中身の視点が重要という話が出た。</p>
会長	<p>地域の支援は前回も出た話だが、今回はワーク・ライフ・バランスの必要性和保育の質という話が出たことになる。</p>

Bグループ の発表	みんなが仲良く、楽しく、しあわせに暮らしていくために、例えば犯罪者にならない子ども、きちんと肯定する子ども、他となかよくできる子ども等、こんな子どもになってほしいという思いが大事だ。そのためには子どもに寄り添っている保護者への支援がとても大事。保護者へのレクチャーや支援が一番大事で、子に寄り添う、親に寄り添う、そして保護者が子どもに寄り添えきれないときは地域や行政が支援することが大事。子どもを囲うように支援していくことが大事だ。また、働く親のワーク・ライフ・バランスを考えなければならないし、そのために社会の仕組みづくりが大事だ。
会長	乳幼児期の育てられ方について、長期の追跡調査からも後に影響することが言われている。そのために保護者への手厚い支援が必要で、地域のいろいろな人が支えること、ワーク・ライフ・バランスが必要。ニーズ調査の結果から、量的な拡大とワーク・ライフ・バランスも出ている。地域の支援の重要性が子どもの最善の利益に通じることが、A、Bグループから出た。
Cグループ の発表	学齢時の健全育成のためには何が必要かを考え、子どもを中心とした若い世代の地域のネットワークを考えた。地域力がダウンしており、その原因は町会等の高齢化が進み、若い人が入って来ないことだ。地域を強くする必要がある。また、地域と個々の家庭の結びつきが重要だと考えた。そのためには学校が地域と家庭を結びつける交流の場として働くことが必要で、地域と学校との関係も強くする必要がある。学校では出来ないことを地域で教え、生きる力を強めることが必要だ。 また、行政でやっていなかった新たなきめ細かい子育て支援として、中学生障害児への支援や冒険遊びなどが必要という意見が出た。 中学生になっても心の成長期に家庭の中でのしつけや教育等も必要ではないか、この中で地域を愛する力が出るのではないかという意見が出た。
会長	子どもを中心とした地域のネットワークの観点が出た。
Dグループ の発表	小学生、中学生は大きいので、しつけ、勉強、体験が大切だという意見にまとめた。勉強の習慣づけと中学生では職業を意識した教育が必要になるだろう。また学齢期には体験が必要だが、区がキャンプをやっていることを知らない人もいる。
会長（総評）	地域の中での体験の位置づけと、そのことを周知することが大切なことも付け加えていただいた。 事務局にはこれを書き足してもらい、今回の論点を整理し、次回、乳幼児と学齢期に必要なことを整理して出して欲しい。 今後、ニーズ調査の結果を受けながら、保育の需給に関する事などの話に移って行くと思うが、ここで何を大事にするのかを考えていくことになるだろう。 子どもの最善の利益のための地域のネットワーク、家庭、働き方を含めたワーク・ライフ・バランスが共通認識ではないか。今後、これを基本にして実際の具体的な作業に入っていくことになる。

～第3回墨田区子ども・子育て会議議事録から抜粋～